

**地域の経済動向(令和6年1-3月期)**  
**《道北(上川・留萌・宗谷)地域》**

1 経済動向に係る企業等の声(1~3月期)

**【建設業】**

- ウッドショックによる建材の高値感は、薄らいでいるが、その他資材・設備の価格は依然上昇しているほか、モデルハウスの来場者数も減少しており、新築住宅購入マインドが低下し、景況感は悪化している。(建設業)
- 職人(技能労働者)の時間外労働の上限規制を遵守しながら、現場が上手く回るかどうか、注視している。(建設業)
- 賃上げについて、中小企業は売上の見通しが厳しく、賃上げ率を抑制せざるを得ない状況。新卒募集時の給与も引き上げる必要があるが、在籍社員の給与水準とのバランスが難しい。(建設業)

**【製造業】**

- ホタテは国内相場の下落により昨年より売上は下がったが、浜値も下がったことや、これまで中国に輸出していた事業者から加工を引き受けたことなどにより、会社全体では昨年より売上は上がった。一方で、資材や運送費の上昇、特に電気代は3~4年前と比較して倍近く上がったため、会社全体の利益は昨年とほとんど変わっていない。(水産加工業)
- 中国に代わる新たな輸出先を探しているが、東南アジアなどは取引額が低く、米国やEU向けにはHACCP対応のため数億円規模の設備投資が必要であり、中小の事業者では対応が難しい。(水産加工業)
- 取引のあった飲食店が廃業したことから、売上げが減少した(食料品製造業)。
- 原材料である青果は大手企業に買い負けてしまい、製品の製造ができない状況に拍車をかけている。(食料品製造業)
- 昨年の猛暑の影響による農産物の不作から、規格外野菜を仕入れて加工・生鮮で販売した結果、売上は増加したが、今後は原材料等価格上昇と販売価格への転嫁による消費者の買い控えなど懸念材料が多い。(食料品製造業)
- 発注量が少なく単価も下降傾向にあるため、コロナ禍前の売上高には遠く及ばず、厳しい経営状況が続いている。(家具製造業)
- 採掘用の重機、岩石運搬用トラックの資格を有した若手人材が特に足りない。従業員の高齢化が進んでいるので有資格者の若年化を図りたいが、資格の有無を問わず募集しても応募がない状況。(製造業)
- 工場従業員の約半数が外国人技能実習生で、地元高校生は募集しても応募がなく、ここ数年は新規採用ができない。(水産加工業)
- 外国人技能実習生を受け入れるため、住居を購入して改修した宿舎を用意しているほか、福利厚生には力を入れている。(水産加工業)
- 人手不足解消に向けて、ホタテの殻剥き機など省人化の機械の導入を検討したが、サイズごとに別の機械が必要となるほか、選別工程などは結局、人手が必要となり、また導入まで1年以上かかり、その間に中国等の情勢も変わってくる可能性があることから、多額の設備投資はリスクが高いと判断し、自動選別機等の導入は見送った。(水産加工業)

### 【卸売・小売業】

- 物価上昇に伴い売上額は昨年を若干上回ったが、電子帳簿保存法への対応で業務負担が増えた。(繊維・衣服等卸売業)
- 毎年、ウインターセール期間中の来店客数が減少。(繊維・衣服小売業)

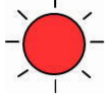
### 【運輸業】

- 4月から運賃の見直しがあり好材料となるが、維持更新の設備投資が不可欠であることから、厳しい状況が続いている。(道路貨物運送業)
- 損益面ではコロナ禍以降、着実に上向いてきているが、従業員不足や融資返済の負担増、今後の賃金改定も意識しなければならず、資金難で設備投資が思うようにできない。(道路貨物運送業)
- 冬期は、観光関連の路線が好調のため、コロナ禍前の9割程度まで回復したが、2024年4月以降の勤務管理システムの再構築や外国人客対応のためのキャッシュレス決済対応などの設備投資により、資金難が続いている。(道路旅客運送業)

### 【サービス業】

- 技能労務者単価上昇に伴い5%程度の賃上げを予定しているが、民間工事は価格競争が厳しく価格転嫁が困難なため、利益の低下が見込まれる。(サービス業)
- ソフトウェア開発の経験者が少なく、今後の需要に対応しきれない。(情報サービス業)
- 新年会等の会食はコロナ禍前に戻ったが、2次会の需要がいまだに戻らない。(商工会)

































## 2 道内金融機関から見た地域景況感(1-3月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

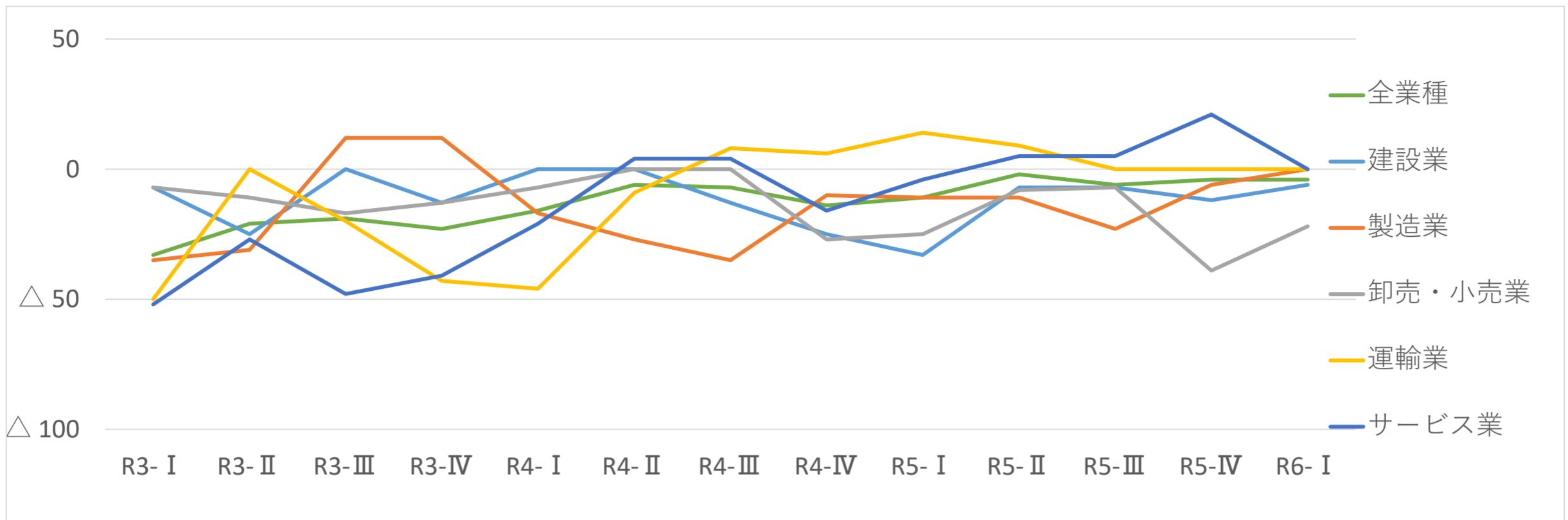
### 【直近の景況感】

	現在の景況感			判断理由	方向感	次期見通し
	総合	生産動向	消費動向			
旭川信用金庫				人の動きもコロナ禍前に戻り景況感は回復傾向と回答する企業が多かったが、相次ぐ値上げの影響や2024年問題への懸念から、総合的には「普通」と判断した。		2024年問題への懸念から、今期と変わらない見通しと判断した。4月より始まることからまだどのような影響があるか判断ができず、今後の景況感は予想しにくいとの声も聞かれた。
北星信用金庫				全体的に売上、業況は持ち直しの動きが続いているが、依然として資材高騰、物価高、燃料高、人手不足と様々な影響は続いており、総合的な景況感については前期同様、「普通」と判断した。		当面の間は資材高騰、物価高、燃料高、人手不足と様々な影響が続いていくものと考えられ「変わらない」と判断した。
留萌信用金庫				景気動向調査による業況DIは、前期と比較して△12.4ポイントとやや低調であり前期同様「やや低調」と判断した。「やや低調」の要因は、業種別で見ると建設業の変化幅が16.0ポイントとやや改善しているものの、製造業が△47.5ポイント悪化、卸売・小売業、サービス・不動産業が△6.0ポイント～△13.1ポイントとやや低調であることから、総合的に見て前期同様「やや低調」と判断した。		景気動向調査による次期予想DIを見ると全業種が9.2ポイントとやや改善が予想され、業種別に見ても建設業の△31.3ポイント悪化の予想ではあるが、その他の業種で5.9ポイント～35.3ポイント改善の予想であることから「上昇傾向」と判断した。
稚内信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、主営業地区が閑散期を迎える中、前年同期と比べて、建設業を除く全業種で売上額DI、収益DIの悪化が示され低調な状況である。以上の結果から、総合を「低調」、生産動向を「低調」、消費動向を「低調」と判断した。		同調査によると、業況DI(15.5)、受注額DI(25.0)、売上額DI(25.9)、収益DI(10.9)で盛業期に向かう中、経済正常化への期待が高く概ね改善傾向を示す一方、製造業ではやや警戒感がくすぶっている。以上より「上昇傾向」と判断した。

### 【景況感の推移】

	R4-Ⅱ	R4-Ⅲ	R4-Ⅳ	R5-Ⅰ	R5-Ⅱ	R5-Ⅲ	R5-Ⅳ	R6-Ⅰ
旭川信用金庫								
北星信用金庫								
留萌信用金庫								
稚内信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I	R5-II	R5-III	R5-IV	R6-I
全業種	△ 33	△ 21	△ 19	△ 23	△ 16	△ 6	△ 7	△ 14	△ 11	△ 2	△ 6	△ 4	△ 4
建設業	△ 7	△ 25	0	△ 13	0	0	△ 13	△ 25	△ 33	△ 7	△ 7	△ 12	△ 6
製造業	△ 35	△ 31	12	12	△ 17	△ 27	△ 35	△ 10	△ 11	△ 11	△ 23	△ 6	0
卸売・小売業	△ 7	△ 11	△ 17	△ 13	△ 7	0	0	△ 27	△ 25	△ 8	△ 7	△ 39	△ 22
運輸業	△ 50	0	△ 20	△ 43	△ 46	△ 9	8	6	14	9	0	0	0
サービス業	△ 52	△ 27	△ 48	△ 41	△ 21	4	4	△ 16	△ 4	5	5	21	0

### 4 各種経済指標

